



生徒一人一人のよさを見極め、称賛し、夢と希望を育む学校

羽生市立南中学校

令和7年11月28日発行

南中だより 12月号

「勇者たちがつなぐ襷のドラマー あなたはやればできる人ー」

校長 堀越 成夫

今学期もいよいよ一ヶ月となりました。あれだけ暑かった毎日も気がつけば冬の到来を感じる日々となりました。体調にはくれぐれも気をつけて過ごしてください。

毎年、冬休み中の1月2・3日に行われる通称「箱根駅伝」(正式名称は「東京箱根間往復大学駅伝競走」といいますが)、私が楽しみにしている正月の風物詩です。

10人が襷をつなぎ217.1kmを走り切る箱根駅伝は、この大会で毎年多くのドラマが生まれます。途中、脱水症状や低体温症で体がけいれんし、意識朦朧となりながら、時間と闘いながらタスキをつなぐこともあります。各大学、各選手は、あきらめずに努力して練習に励み、そして大会に臨み、自分自身の壁を乗り越えているのです。そこにあるのは、「タスキをつなぐ」というチームのために果敢に自己の限界に挑戦した「勇者」だけです。

さて、この「箱根駅伝」ですが、始めたのは、金栗四三という、日本人初のオリンピック選手です。今から100年以上前の1912年、第5回スウェーデン・ストックホルム大会でした。出場選手は、陸上短距離の三島弥彦選手とマラソンの金栗選手でした。結果は2人とも散々なもので、マラソンの金栗選手は熱中症にかかり、途中で行方不明となり棄権してしまいました。

金栗選手は、世界の壁を大きく痛感しました。そして、これからの日本の若いスポーツ選手を育成し、競技レベルを上げるために一つの大きな決意をしたのです。それが、世界に通用するマラソン選手の育成を目指した「箱根駅伝」です。金栗四三は、箱根駅伝に尽力し、日本のマラソン界の発展に大きく寄与した人物として「日本のマラソンの父」と呼ばれています。

令和8年1月2・3日にも、第102回箱根駅伝が行われます。皆さんも、箱根駅伝の選手のように、「自らの目標に、勇敢にチャレンジする」という気持ちをもって、この年の瀬を勉強に運動に取り組んでいきましょう。皆さんの無限の可能性を信じています。



日	曜日	予 定	日	曜日	予 定
1	月		20	土	
2	火	羽生市学力アップテスト(1,2年)	21	日	
3	水	登校指導日	22	月	特別日課(4時間) 大掃除③④ 給食終了
4	木	5時間授業 6789組販売会 月例費引き落とし	23	火	特別日課(3時間)
5	金	薬物乱用防止教室⑥ 6789組販売会	24	水	終業式(部活動中止)
6	土		25	木	冬季休業日(1月7日まで)
7	日		26	金	清掃活動(2年4組)
8	月		27	土	
9	火		28	日	学校閉庁日(1月3日まで)
10	水	2学期末PTA	29	月	
11	木		30	火	
12	金		31	水	
13	土		1	木	
14	日		2	金	
15	月		3	土	
16	火		4	日	
17	水		5	月	清掃活動(2年4組)
18	木	特別日課(5時間)	6	火	
19	金	特別日課(5時間)	7	水	
			8	木	始業式(部活動中止)
			9	金	特別日課(4時間)

スキー学校(1年) 1月14日(水)~16日(金) 校外学習(2年) 1月15日(木)
自己啓発の日: 1日、10日、17日、24日 下校指導: 17日